

福島県PTA連合会会報
第71号_H18.12.15

PTAふくしま

第71号

福島県PTA連合会
編集/調査広報委員会
印刷/泉印刷所

はつらつと演奏する「マーチング喜久田」のみなさん



オープニングアトラクションとして、素晴らしい演奏を披露しました。

《主な記事》

- 郡山大会参加記 P 2～3
- 各種受賞団体等紹介 P 4～5
- 日P大会参加・郡山大会を終えて P 4
- 母親代表者懇談会概要 P 5
- 事務局より P 6

郡山大会をふり返って



郡山大会実行委員長

柳 沼 俊 光

第三十八回東北ブロック研究大会郡山大会を、ここ「水と緑がきらめく未来都市」郡山で開催し、東北各県そして県内から二千六百

余名の参加者を迎える有意義で実り多き大会を行うことができましたことに、実行委員会を代表して心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。本大会の成功は、実行委員会はもとより、郡山市PTA連合会会員一人一人にとって生涯の大きな経験と喜びになったと確信しております。

この大会は、ともに進もうPTA（開拓者精神（フロンティアスピリット）を胸に）を大会主題とし、子どもたちが心身ともに健全でたくましく心豊かに成長することを願って、幼・小・中・高が協力し合い、郡山大会が成功するよう準備を進めてきました。七つの分科会の中でも郡山大会として、幼・小・中・高のPTA連携やノーマライゼーションの実現に

向けて、という討議の視点を取り入れ郡山市PTA連合会の日頃の活動の特色を十分に発揮できたのではないかと考えております。

全体会においては、今話題の立命館大学教育開発・支援センター教授、立命館小学校副校長兼務の陰山英男先生の貴重な経験と豊富なデータによる興味深い講演をいただき、参加者の皆さんも最後まで楽しまれたようです。私も大会の主催者であるという立場を忘れ、集中して聞き入っていました。今の私の口癖は、「早寝・早起き・朝ご飯」です。

最後に、子どもたちが、「二十一世紀を生きる大切な人材」として、夢と希望を抱き、力強く未来を切り開いていけるよう、今回の大会が今後のPTA活動の発展と充実に役立ってくれればと願っております。

結びに、今大会の開催に当たり陰に日向にご尽力いただいた関係者各位に衷心より厚く感謝を申し上げます。

(社)日本PTA全国協議会 第三十八回東北ブロック研究大会郡山大会に参加して

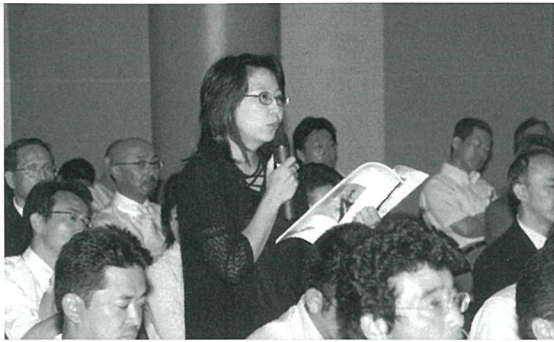
◆第一分科会 組織運営

西会津町立西会津中P会長
武藤 道 廣

「新しい時代に対応する組織運営」と「会員の意識向上を図るための方策とPTA活動」というテーマは、役員のなり手がなくて、三年間のブランクがありながら会長を受けた時に感じた大きな課題でもありました。西会津中は五年前に統合中としてスタートし、当時副会長として組織や運営に関わり、活動していました。その後、どの様に運営されてきたのか、また会員の顔がほとんど変わってしまい役員と活動のひとつひとつの確認からのスタートになりました。パネリストの依頼があり、統合後の現状とありのままの気持ちで臨み少しでも自分の役に立てばくらいに思っていました。

大会当日の組織運営の分科会は、堅苦しいテーマにもかかわらず今まで経験したことのない雰囲気の中で活発に、時にはユーモアと笑いもあり、最後にはアクシデントのオチありとフロアと一体となったすばらしい協議会場となりました。コーディネーターの進

行の巧みさと他のパネリストが、活動にしっかりとした理念と経験を持つておられたことと、キャラクター、そして何よりも参加された皆さんのPTAに対する思いが成功に結びついたと感じています。私も小・中PTA活動のスタンス、役割の違いや学校規模による運営方法の工夫、また、その時代や社会に合わせた活動等組織運営は、永遠のテーマであることを再認識し、PTA活動を通して子ども、教師、親が互いを認め高め合えるよう、大きな感動を得た二日間でもあり、この様な機会に巡り合えたことに感謝しております。



分科会風景

◆第二分科会 研修活動

須賀川市立稲田中P会長
大河原 一 英

東北ブロック研究大会という大きな大会へ、全校生百四十余名の小さな中学校の代表として、何の経験もない私が、パネリストとしての依頼が届いた時、正直、自信がなく、辞退を考えました。しかし、そんな迷いを消してくれたのが、

◆第三分科会 家庭教育(小)

福島市立信夫中P会長
渡 邊 香代子

東北各地より五百余名の会員の皆様のご参加のもと第三分科会が開催されました。

第三分科会は、「家庭の教育力向上と小学校教育との連携」をテーマとして、「生きる力」を育てるための家庭・学校の役割、基本的習慣、ボランティア活動、総合的な学習における連携等、秋田県PTA連合会前副会長の栗田さんやコーディネーターとしてパネルディスカッション形式で話し合いがされました。

が、校庭で元気に部活動をしている生徒たちの姿でした。この生徒達のために、稲田中の名を東北へアピールできるチャンスだ。そういう思いで、分科会テーマである「研修活動」について、我が校の活動内容を一つ一つ書き出し原稿作りに入りました。その結果、我が校の研修活動は、他校に勝るとも、劣らないことがわかりました。普段なにげなく、年中行事として、取り組んできている活動が、実は、地域と学校、生徒と保護者、先生が一体となっていることが再確認できました。そんなすばらしい内容を、大会参加者に、どう伝える

か不安でしたが、当日は、関係者の協力を受けながら、役割をはたすことができました。今大会を通じて、多くの人達と交流をもつことができ、特に、教育問題という共通の課題に対して話し合えたことが、今後のPTA活動の参考とさせていただきました。このような有意義な場を提供いただいた郡山大会の実行委員の方々に心から感謝申し上げます。

秋田県の三浦さんからは、特に情報化により地域に関係なく多くの情報が氾濫している状況にどう対処していかなければならないのかという点などを中心としたお話、青森県の村上さんからは、自然体験を通じた子どもたちの活動とPTAと地域のかかわり方を、私の方からは、中学校PTAとして、小中連携の必要性や中学校で行われている職場体験やボラン

ティア体験等を中心としてお話しせていただきました。

そして、古殿町立山上小学校の鈴木校長先生からは、保護者と地域の人たちの各種の学校行事への参加について、また子育ての先輩としてのお話など、それぞれの立場で様々な角度からの話し合いがもたれ、また会場からも質問をいただくなど、充実した分科会になったのではないかと思います。

問題は多岐にわたる、この分科会で結論を出すというところには至りませんが、ご参加いただいた皆様が家庭教育、地域のかかわり方などについて振り返ってみるきっかけにしていただけではないかと思えます。



◆第四分科会 家庭と中学校教育

会津若松市立第四中P副会長

若林 由美

『進路選択と学校・家庭の連携』というテーマのもと、三名のパネリストの方々とともに、子どもたちの進路(＝生き方)に関わる現状と課題、学校が取り組んでいる活動について発表させていただきま

学校・家庭・地域が連携を図りながら『生きる力』の育成に取り組む中で、どのような成果や課題が見られたのか、また、キャリア教育との関わりで生徒が将来を真剣に考え主体的に進路を選択・決定するためにはどうしていけばよいのかについて話し合いました。

東北各地より参加された皆様にも質問を投げかけ、全員に意思表示をしていただくという第四分科会のスタイルは、問題点の提示はもちろん、積極的な意見・情報交換もでき、大変有意義な機会となりました。

『学びは真似ることから』という言葉がありますが、今大会の他校のすばらしい実践に学び、地域の良さを生かしながら学校・家庭・地域がそれぞれの立場で分担し、協力し合っていることから実践していけばよいのではないかと感じました。

大会決議

- 1. わたくしたちは、子どもの幸せを願う保護者と教師の会であることの原点に立ち、家庭、学校、地域相互の連携を一層深めるため、活気あふれるPTA活動に努めます。
- 1. わたくしたちは、家庭のもつ教育的な役割を認識し、PTA活動を生涯学習の一環として受け止め、望ましい家庭教育の充実に努めます。
- 1. わたくしたちは、地域社会における役割を自覚し、関係諸機関との連携のもと、心身ともに健全な子どもたちの育成のため、地域の教育力向上に努めます。
- 1. わたくしたちは、ノーマライゼーションの精神を重視し、すべての人々が共に歩む共生の社会の実現をめざすPTA活動に努めます。
- 1. わたくしたちは、生命と人権を尊重するとともに、郷土を愛し、世界にはばたく子どもを育むPTA活動に努めます。

平成18年9月10日

社団法人日本PTA全国協議会 第38回東北ブロック研究大会郡山大会

◆第六分科会 特別課題I

福島県立郡山養護学校P会長

本田 洋子

私は、第六分科会「心の教育とPTA活動」①思いやりの心の育成、②ノーマライゼーションの実現に向けてをテーマにしたパネリストとして、また、障がいのある子の親としての立場から実際に行っているPTA活動を中心にお

◆第七分科会 特別課題II

いわき市立四倉中P副会長

藤田 祐子

東北ブロック研究大会という大きな大会で、パネラーという役割は、私にとつて今まで経験のないことでした。それだけに、不安を抱いて参加した分科会でしたが、無事に終えることができた安堵感と一つの巡り合せの中で貴重な体験ができたことに感謝しています。

第七分科会のテーマは「幼・小・中・高等学校のPTA連携」この難しいテーマを、どうまとめたらよいのか戸惑いましたが、

話をさせていただきました。提言者、コーディネーター、パネリストの方々からは、それぞれのお立場や経験をお話をしていただきました。さらに、会場の皆様からも貴重なご意見・質問等により、情報交換ができましたことは大変有意義な分科会であったと思います。

大会を終えて、子どもたちの幸を願い、健やかな成長を願っているのは、障がいのある子ない子の親で有る無しにかかわらず、すべての親

討議視点①「幼稚園、小学校、中学校、高等学校で身につけさせたいこと」、討議視点②「幼小、小中、中等学校のPTA連携」この二つの討議視点より、まずは、我が子の育てを見直すことから始め、そして、私が活動しているいわき市連P母親委員会の、今までの活動内容をテーマに沿って、福島県いわき市ならではの「小・中学校のPTA連携」の特色についてまとめ、想定問答も実施して分科会に臨みました。

当日の午前中に、各分科会に分かれて関係者による会の進め方や内容についての打ち合せがあったおかげで、私なりに提言発表する心の準備ができました。また、運営ならびに会場責任者の方々の細やかな心遣い、そしてコーディネーターの的確な判断に素晴らしいものがありました。

に共通していることであることを再確認いたしました。私たち親としてできることは、子どもを取り巻く人の輪づくりだと思えました。安心して暮らせる社会にするため、人びととの連携を大切にしながら福祉の輪を広げ、ノーマライゼーションの実現に向けて、温かさ、優しさ、豊かさが溢れるような社会にすることが大切だと考え、地域の皆様とともに歩んでいけるPTA活動に取り組んでいきたいと思っています。

この大会に向けての準備期間の中で、周りの方々の暖かな支えがあつて役目を果たすことができました。拙い発表ではありましたが、これからのPTA活動の参考になれば幸いです。



晴れの表彰

おめでとう

ございます

一、文部科学大臣表彰優良PTA（二団体）

- ・西郷村立熊倉小学校PTA
- ・大熊町立大野小学校PTA

二、日本PTA全国協議会会長表彰

◇団体（二団体）

- ・飯館村立白石小学校父母と教師の会
- ・小野町立小野中学校PTA

◇個人（四名）

- ・川村 勝彦（県P連前副会長）
 - ・皆川 誠治（県P連前副会長）
 - ・菊田 宏（県P連前総務部長）
 - ・八島 厚子
- （県P連前母親代表理事・日P評議員）

三、東北PTA連絡協議会会長表彰

◇団体（八団体）

- ・福島市立渡利小学校父母と教師の会
- ・二本松市立塩沢小学校父母と教師の会
- ・郡山市立小原田小学校父母と教師の会

・下郷町立植原小学校父母と教師の会

福島県PTA連合会長表彰

〔感謝状〕

・川村 勝彦前副会長 他二十九名

〔団体表彰〕

・福島市立渡利小学校父母と教師の会 他三十四団体

〔個人表彰〕

・菊田 正樹（福島） 他百八名

※全名簿は東北ブロック研究大会郡山大会要項別綴に記載しておりますので参照してください。

郡山大会を終えて

大会事務局長

菅野 富博

前年度から、東北大会実行委員会を立ち上げ、北村山大会の視察、市内東西南北中の五つのブロックに各委員会を依頼するなど、大会運営のための組織作りが前事務局校を中心に行われてきました。また、開催地郡山の幼・小・中・高・養護学校が組織されたPTAは他に類を見ないことから、「幼・小・中・高の連携」や「ノーマライゼーション」関係の二つの特別課題分科会を設けました。

前事務局校から引継ぎ、今までの流れを教えてもらいましたが何から取り組んだらいいものか不安な状態でした。本格的な活動は、新年度になって新しい各校のPTA会長さんなどが決まってからでした。ですから、五ヶ月の短期決戦だったということができると思っています。

東北大会を経験している宮本市P連会長さん（東北・県P連会長兼務）はじめ市P連役員の方々のアドバイス、県P連事務局長さんからのご指導をいただきながら、慌ただしく仕事に追われながら大会を迎えたというのが実感です。委員会の活動に関しては、ブロック長さんの学校を中心に細か

いところまで気を配っていただき、安心しておまかせすることができました。

特別課題の分科会についても、予定された参加者を上回り椅子を追加するほどの盛況でした。

第三十八回東北ブロック研究大会郡山大会が成功裡に終了できましたのも、この大会に対して多大なご支援・ご協力をいただいた、県教委や市教委をはじめ、(財)郡山コンベンションビューローさん、郡山ユラックス熱海さんその他の会社や事業所の方々、そして、陰でこの大会を支えていただいた延べ人数四百九十人の係員の方々のお陰であり、また、県内の各郡市連Pから数多く集まり、熱心に研究協議に参加していただいた会員の皆様のお陰であります。関係した全ての方々から感謝申し上げます。

宮崎リポート

いわき市P連会長

根本 紀太郎

五十四回を迎えた日本PTA全国研究大会に、初めて参加しました。来年度福島県PTA研究大会が、私の地元いわきで開催される予定であり、内容や運営で参考にしたいと考えながら、開催地の宮崎市へ向かいました。



第38回東北ブロック研究大会 郡山大会

第十二回県P連都市P母親代表者懇談会

県P連母親代表理事

結 城 省 子

- ・田村市立春山小学校父母と教師の会
- ・会津若松市立第三中学校父母と教師の会
- ・相馬市立飯豊小学校幼稚園PTA
- A
- ・いわき市立田人第一小学校荷路夫分校PTA
- ・いわき市立平第一小学校PTA
- ◇個人(九名)
- ・佐藤 晃 (県P連前副会長)
- ・木村 孝雄 (県P連前副会長)
- ・村岡 泉
- ・(県P連前監事・研修委員長) 吉田 博道
- ・(県P連前監事・総務委員長) 添田 保雄
- ・(県P連前理事・健全育成委員長) 山田 典子
- ・(県P連前母親代表理事) 早坂 静枝
- ・(県P連前母親代表理事) 村島 勤子
- ・星 文人 (県P連理事)

福島県教育関係

功労社会教育関係受賞団体

- ・喜多方市立熊倉小学校父母と教師の会

※参 考

平成十八年度、第十二回県PTA連合会都市P母親代表者懇談会が八月十八日、福島県青少年会館において県内小学校中学校代表者二十三名が参加し開催されました。

講話には福島県教育庁教育指導領域学習生活指導グループ吉田先生、健康教育グループ栞田先生のお二人から「望ましい生活習慣の形成について」お話をいただきました。心と頭と体の生活リズムを整えるためには、生活の基本である。

一、心をこめてあいさつしよう
 ・親から積極的にあいさつをする
 ・家族間で積極的に対話をする
 二、本をたくさん読もう
 ・本に親しむ時間をもつ
 ・テレビやテレビゲームの時間の見直し
 三、家庭学習を毎日やろう
 ・学習する時刻、時間を決める
 ・学習に集中できる環境づくりをする

四、朝食を必ずとろう
 ・朝食をとる時間を考えた起床時刻を決める
 ・家族一緒に食事をとる
 五、汗をかく運動を一日一回しよう
 ・親子で運動に親しむ機会を持つ
 ・余暇時間の過ごし方を見直す
 この五項目を家族揃って実践することが大切とお話をいただきました。

智・徳(心)・体 すべて基礎は「食育」であることを
 ・個食 別々なものを食べる
 ・固食 一定のものを食べる

・小食 量が少ない
 ・粉食 パン、スナック、麺
 ・一品で食事として成立するもの、子どもたちはこのような食事になってませんか？
 「誰かと一緒に食べると食事は楽しい！お米はいろいろなおかずと食べると多様な味を楽しめる」
 食育基本法では、家庭においては子どもの生活のリズムをつけさせ、肥満をなくす、運動をさせる、三食きちんと食べる、間食を考える、日本型食生活を推進する。

また、県教委の学力調査によると朝食を必ず食べる子は「勉強が好き」成績も比例するとの結果がでています。
 子どもたちは「夜型」の生活で睡眠不足が日常化し、朝食の時間が取れない。私達は親としての役割を果たすためにも、子どもたちの生活のリズムを正常化し、正しい生活習慣をつけさせることを急がなくてはなりません。

小学校部会からは「食育について」「生活習慣について」話し合われました。
 家族揃って食べることが朝だけではなく、スポ少などで夜も難しいのが現状。

意識して週一度は家族揃って一緒に会話し食事する時間をつくる。祖父母と同居世帯では野菜料理、煮物等相食が子どもは苦手。和食は手が込んでいて手間が掛かると親自身も思ってしまう。

子どもの好きな「粉食」になりがち家族一緒に食べることが大切さを子どもに伝えたい。
 食事Ⅱ食べさせることが大切だと

親が思っていた。どんな物をどんな状態で、どう食べさせるかが重要。朝食にご飯を食べるとブドウ糖に変わり脳の働きが活発になる。また「噛む事の大切さ」噛むことが運動や脳、体のバランスに大切である事等、親が知識をもっていれば子どもに伝えられる。

また、家族内での役割分担やルールの時間を決めてもなかなか難しいが、何故必要なのかを親子で話し合う。などの話し合いが行われました。
 指導助言の先生から子どもとどこか繋がっていることがあれば分かりあえる。意識改革をするⅡ子どものために何ができるか。悩むことも大切であり、悩むことは考えることである。子育ての時期、悩める時期は長くない。

ゲームを離すために何をしたらよいか？本を読む、親から始める。一緒に居ることⅡコミュニケーション。
 宿題・家庭学習は子どもが何をやっていくか見る、見て話しかける。子どもに学ぶ。

父親は子育てにおいて一回は本気で怒る時がある。日常的なことは母親、困ったことがあった時は父親と家庭での役割分担が必要。楽しみながら子育てをしよう。ほしいとお話で締めくくられました。

中学校部会からは「生活習慣を身につけさせるには親が子どもにどう関われば良いか」「PTAが子どもにどう関われば良いか」について話し合われました。

子どもの手の掛かる時期は限られているので親が背中を見せる。自分が不快だと思うことは他人にしない。夫婦仲が良いことが大事。
 親は多忙の中頑張る食事を作っている姿や、朝たとえ三分でも忙しい時間を割いて子どもと一緒に食卓に座る姿は子どもに伝わる。家族と一緒にのとき子ども一人ひとりと会話をしよう。

飽食のせいとか手軽に飲食が出来、食べることに対して欲がない。
 親子でお弁当を作る日を設けてはどうか(年三回くらい)
 挨拶運動・学校生徒だけでなくPTAの参加、保護者から積極的に関わる。地域に知ってもらうために広報誌などに掲載し配付しよう。

他人の子どもでも積極的に関わって親同士の連携が大切。連携が取れていれば皆同じ目的があるので子どもにアドバイスしやすい。
 親の意識が変わらないと子どもも変わらない。親が見本になること。父親に関わってもらうよう、父親にも学校のことを知らせることが大切との話し合いがもたれました。

参加者から懇談会で話し合ったことを学校の広報誌等で配付すると良いとお話があり、とても有意義な時間をすごしました。



記念講演をされる
 立命館大学大学教育開発支援センター教授
 立命館小学校副校長兼務 陰山 英男先生

ふるって応募ください

◇子ども災害事故防止習字・ポスター展

実施要項を各学校に送付しておりますが、今一度ご確認ください、多数のご応募をお待ちしております。

- ・応募締切 平成19年1月末日
- ・作品送付先 県PTA連合会事務局

◇学校新聞、PTA広報紙コンクール

各学校PTAでは、それぞれ特色ある新聞、広報紙を発行されていることと思います。ふるって応募くださいますようお願いいたします。

- ・応募締切 平成19年3月29日
- ・送付先 福島民友新聞社事業局
「県小中学校新聞・PTA広報紙コンクール係」

十月以降、いじめを苦にした自殺が続発しました。心痛める事件です。子どもの健やかな成長を図ることは、我々大人の責任ですが、その責務を果たすことを一日たりともおろそかにすることはできないのです。いじめも、児童虐待も、子どもの生存と人権を守るという基本的な認識をもってさえいれば起こりえないことではないでしょうか。

日Pから、「いじめ根絶といのちの尊さを訴える」緊急アピールが出されました。その第一項めに「私たちは、「子育ての第一責任者である」ことを再認識しよう。」とあります。

(T・H)



編集後記

年末年始の交通事故防止を

「夕暮れに 光るライトが 防ぐ事故」

のスローガンのもと、「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」が下記により実施されます。

●期 間

平成18年12月10日(日)
～19年1月7日(日)までの29日間

●運動の基本

高齢者の交通事故防止

●運動の重点

- (1) 飲酒運転の追放
- (2) 夕暮れ時及び夜間の歩行者・自転車乗用中の交通事故防止
- (3) 後部座席を含む全席シートベルト着用の徹底

年末年始は、交通事情が大きく変化します。そのような中で事故ゼロに向けてどう対応したらよいかを、学校で、家庭で地域で話し合い、その実践をお願いします。

大人自身が規範意識を確立し、子どもの手本となり実践することが最良の教育です。

安全互助会から【お知らせ】と【お願い】

平成18年度から入会申し込み時期など、一部変更になっています。

加入コースを決定し、3月9日(金)までに加入申し込みをしていただくこととなります。早めの対応をよろしくお願いいたします。

- ◇会費の納入期限は5月末日です。会費納入をもって4月1日から補償が開始されます。(集金事務を納入期限に間に合うようにお進めください。)
- ◇事故(傷害、賠償いずれも)が発生したら、速やかに該当する「事故報告書」(傷害事故報告書、賠償事故報告書)をFAXしてください。
その際、特に必要がなければ送り状は付けずに送付願います。

福島県PTA連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》 **共栄火災海上保険株式会社**

〒960-0231 福島市飯坂町平野字三枚長1-1 JA福島ビル2F

TEL 024-554-3006(代) FAX 024-554-3023